

新春特別インタビュー  
豊かな旅づくりへの提案

夢はファミリー寝台列車をつくること  
思い出が子どもに焼き付く  
親子の旅をつくってあげたい

# デザイナー 水戸岡 鋭治さん



「JR九州の豪華特急列車、ななつつ星inn九州」、新幹線「はなび」なく、鉄道車両のみならず、駅舎、駅ビル、高速船などさまざまな鉄道を手がける水戸岡鋭治さん。鉄道の旅の魅力、また観光が地方創生に果たす役割などを語っていただくとともに、観光立国へのアドバンスをお願いした。聞き手は編集長・内井高弘。(ドキュメンタリー研究所)

「安全・安心で正確、かつリラックスできる。懐かしさをもち、システムとしても進化している。さらに、一番新しい、トータルとして進化している乗り物だ。社会が家族化していく中で、家族団らんを生み出せる可能性があるのが車の旅だ。また、若い世代は車にそうじゃないもの通った。何から全て唐池さんが見ている。そうじゃないもの通った。それはつらい。なつみのデザインについてもJR九州の人は普通、やさしいなチェックをしなかった。僕らが全力で取り組めるように整理整頓してくれた。僕たちはザイナーとJR九州の信頼関係、僕と職人チームの信頼関係をそれぞれかちつてきていた」

R九州のネーミングは独特です。

家にいるのと一緒でたまたま移動しているだけ。そういう旅をしてきた子どもが、観光列車にお父さん、お母さんと乗ると、全く別の時間が生まれる。お母さんは観光列車に乗ると何もしなくていい。ワゴンサービスは来るし、子どもたちがよろよろするとサービスクールが見てくれる。寝てよし、食べてよし、景色を見てよし。鉄道の旅は親子がしっかりと顔を合わせて話す貴重な時間が生まれる。

「ほけ唐池さんが決める。まさに『おぼろ』の神様。」  
「あそぼい〜」、高遠船長の「ピートル」など全てそう。  
「或る列車」は幻となつた豪華別荘車からいたいたな名前。  
星は特に苦勞のないなかから決まらず、最終的に「なつめ星」九州が出てきたが、僕はいのちの反対して、「inn九州」を付けのに反対した。でも唐池さんが絶対にしない九州を世界に知らせたいと世に出すものををつくるという経営者

「J R九州が1部上場できたのじゃない」とロマンは生まねない。国(北海道の経営はとも厳しい。豪華列車の建造も容易ではなかったと思います。

「分別啓蒙されて先が見えず、また『列車をデザインする』という言葉を使う」と馬鹿にされた時代に、JR九州はデザインすることによって商品価値を上げ、今までにないものをつくっていったと決めた。それが他にない豪華列車であり、乗客を上げる手段だった。当時の社長の意を受けデザイン化に会社組織だ。ななつ星は赤色の車体だからこそできたという。黒字だったらそんな冒険をしなくていいのだから」

「……」

「それから、世界中が豪華列車なってきたから、ある日本企業も、あえて日本に、オリエントエクスプレスをつくったイギリスでも、もう豪華寝台列車をつくるつもりがない。じゃあJR九州がその思いを継ぎ、今、ななつ星は世界一の観光列車だと思つて」

——スタッフの教育も徹底した。そうですね。

「運行開始の一年以上前から旅館やホテルに行って教育を受けた。小さいホテルがあるの」

「JR九州の社風もあったでしょーね」

「ななつ星は唐泊恒二社長（当時）のリーダーシップがあつてこそ。プロジェクトの担当部長や重役が中心で、バラバラに見るのはよくないななつ星については食事が意識が変わつていった。贅沢な

旅をてきたお客さまが乗って来る。そのお客さまがレクチャーしてくれる。主役はお客さまで主役が旅をつくる。最高の舞台をつくる。でクルーが最高のサービスをする演技を身につけていった」

「ななつ星は1泊2日と3泊4日の旅があって、旅の最後にみんなが集まって映写会をする。旅の様子がスクリーンに写し出されるとみな涙する。僕も実際に乗ってみたが、本当にみんな泣いていた。たがが、当りみんでも、それぐらい今までにない旅を体験する。だからリピーター率は25%にも上る。一番たさん乗った人で5回という人がいる。この列車の価値は、日本人のサービスでも、ともと知っている日本を再認識できること。ものすごくリラックスして、胃袋も五感もすべてリラックスして。海外を旅してきた人が「オリエントエクスプレスよりいいし、世界の旅より日本の旅のほうが断然いい」といつてくれる」

「ななつ星をきかけに、JR東日本の 四季車 や JR西日本の 瑞風、そして私鉄も観光列車に力を入れ始めました。こんなに増えるとは思わなかった笑い。しかし、観光列車はそんなに難しいものではない。ちょっと気持ちよくすればいい。車や車両をつくっている感覚で

は、なく、レストランやホテルをつくるという考え方だ。ちょっとしたサービスをちよっとした地元の食べ物をデパートのように出せばいい」と企業側が分かってきた。地域の人が誇りを持つような沿線まち駅にしてほしいという思いをお持ちですか。

——旅館に対してはどんな思いをお持ちですか。

「常識というのは旅館ごとに違っている。常識が全て一緒だと思っていることが不満かな。レベルが60点に達していない旅館が多い。一番簡単なのは整理、整頓、清掃、清潔、しつけが基本中の基本だけれども、それもできていないところが結構ある。『うちの旅館はこのレベルまで』という常識をどの旅館の女将さんも持たなくてはいけない。その常識がほかと違うのが、これが、例えば、京都の伝統旅館と、これが違うのか。でもここは取り入れることができる」と分かったら取り入れる。そうすると旅館は変わる」

「もし分かんなければ、専門家に聞けばいい。どういう専門家を選ぶかもその人の常識。自分の周囲にいる人は自分そのものだから周囲の人から選ぶと失敗する。大事なのはデザイナー、大工さん、建築家を選ぶ際はたいていセンスがないかではなく、健全な経営をしているかどうかを見るべきだ。デザイ

まちを元気にする、手軽でコストからなくて、完成度の高い道具が鉄道車両だ」

■

水戸岡さんご自身は鉄道の旅は好きですか。

「僕は鉄道おたくではなく、単

■

今後手がけてみたいものは

に旅が好きなだけ。車もそのものには興味がない(笑)。楽しんで旅するにはどうしたらいいか考えてるのが一番好きで、自分が楽しんで思っていることを、列車を通してつくって提供する。結果、多くの人が楽しいといってくれるのか、何でしょう。

「なつこ」は本当は私の作りたいものではなく、トカラは外れている。多くの人が最高の公共空間を提供したいという夢が、夢はファミリーレール列車「寝台列車」を作りたい。一般の親子が、一晩中乗って一晩中寝る。その間を始める。

ブルーレインを超モダンに、超かっこよくして、最高に贅沢な空間にする。一度乗った思い出が、どれも一生焼き付いて「鉄道の旅ってこんなに楽しかったんだ」とか、「お父さんと旅したのがこ



THE ROYAL EXPRESS

のは長野の小布施町。町長をはじめ市民が少しでもまちを心地よく豊かに、商品化するのためにみなが手間暇をかけてまちづくりに取り組んでいる。整理、整頓、清掃、清潔、しつけの5Sの実践などもなにも染じなかったとか、そう思い出、感動が残る程子の旅。知らない人と「コミュニケーション」生まれるような公共空間としてつづけてファミリー寝泊り列車をつづけてたい」

——2007年に発表されるのは。

「JR九州の観光列車『かわみ やませみ』で、熊本から今まで走る観光列車。3月4日にデビューして、復興を後押しするンボルとして今やっている。これまでの観光列車よりも少しグレードアップしたもので、或る列車普通の観光列車の間には、驚きな豊かなものをつづけて、地の人と話して、なるべく地元の材でつづけて」

——観光に対してこんな思いがありますか。

「旅をさせるのは国家にとって一番大切な事。国家はその意をもっと出してほしい。人は悲しいこと、嬉しいこと、楽しいこと、何があった時に旅をしたこと、う。旅は精神的なバリエーションと

磋琢磨しで感動する旅になってく。感動は1人でつくれない。くの人が集まって一緒につくるの。そういう気持ちになる。動が生まれる装置をつくるのが僕たちデザイナーの、僕たち人の一番大事なこと。

ために最も大切なこと。国民の全な生活のために大切にしくやいけな仕事で、そこそが家の仕事とっている。国民は豊か旅をしよう。豊かな旅とは自の家から出た瞬間から心地いい。バス、電車に乗って。鉄道駅についてもデザインされて心地いい。それから飛行機に乗るにも気分を良くしてくれる。おいしいお店があって、サービスがあって、自然も。：。トータルに美しく。では豊かな旅はつくれない。そこでできた時、世界一の観光地になる。国民に最高の旅をさせよう。国家が観光地をつくるって。それがひいては国家をつくっていく。そして世界中から人が来る。日本が桃源郷あれは世界中から人が来る。おを使ってコミュニケーションを。わすかなお金を。国を守っていく。外貨獲得をなくともむ国。自給自足の国。一番いい。それが理想の国だ。

A portrait of Professor Tetsuo Nishida, President of the University of Tsukuba. He is an older man with white hair, wearing a dark suit jacket over a white shirt and a dark tie. He is seated at a desk, with his hands clasped in front of him. A pair of glasses is resting on the desk near his hands. The background shows a wooden interior, possibly a library or study, with bookshelves and a window with a decorative glass pattern.

みとおか・えいじ  
 デザインディレクター 研究所代表取締役／デザイナー 九州旅客鉄道  
 デザイン顧問、面商グループディレクター 顧問、石橋財団理事  
 建築、鉄道車両、グラフィック、プロダクトなどさまざまな  
 デザインを手がける。中でもJR九州のさまざまな数々の新  
 しい鉄道デザインは、鉄道ファンの人々をほめて広く注目され、  
 菊池寛賞、毎日デザイン賞、フルネル賞、ブルーリボン賞、ロー  
 レール賞、日本鉄道賞、交通文化賞、グッドデザイン商品選定  
 など多くの賞を受賞  
 デザインした主な車両や建築に、クルーズトレイン「なつ  
 星」N列車、九州新幹線800系、787系などJR九州の特急車両  
 やD&S列車、JRおおひらシティ、京都丹後鉄道「くまづ  
 ・あまづ・あまづ」、肥薩おれんじ鉄道「おれんじ食堂」  
 「阿久根駅」「水俣駅」、しなの鉄道「ろくもん」、薩摩川内  
 市の「高速柏島駅」「川内港タミナル」、岡山電気軌道の路面  
 電車「MOMO」と和歌山電鐵「たま電車」「たま駅舎」、  
 富士急行「富士登山電車」、富士山麓「ある」  
 デザイン「妻籠」プロジェクトに、世に知られつつある  
 日本B.P.社「『なつなつ星』(日本国画集(河出書房新社)  
 「電車をデザインする仕事」(日本能率協会マネジメントセン  
 ター)、など多数

自分の家にもないクルマを使った  
プールや椅子が電車の中で使わ  
れているのが驚きで、JR九州の  
んばりの評価ともなった。

「まちづくりも一緒だと思う  
超モダンなまちをつくることも観  
地にならなないし、ヨーロッパの  
ちをコピーしても然り。日本の文  
統的な善があるDNA、文化  
今の時代に合わせてつくったも  
じやないとおもってしまう。そ  
まちの文化を観光客は見に来る  
だから。住んでいる人がいかに  
かな生活をしているかとか、こ  
まちはこんなに美しく、豊かで  
しように生きているのがいまい  
いうのを感じるのが本来の観光  
はないか」

■

—— 水戸岡さんが感銘したま  
といえは。

「観光で生きていけるのが理の国だ。モノをつくって売ってやるのはその次。生身の人間、きているというライブ感こそ価値がある。それぞれ観光地で、コクさんの演技、サビスする人演技、馬車を運転する人の演技みなさん役者としてそれぞれの技をして、まっちという舞台をつつてい。ちゃんと脚本を書くがいるか。監督、照明がいるか。小道具、大道具、本を植える人全部がそろって見事な観光地の台ができてくる。そこに行ったら、こんなすごい舞台だ。だから自分も客として、最高の役を演たいと思う。お互い演技して、

おめでとうございます。

**ソングと湯めぐりワールド**

「一番うれしい」——観光列車をデザインする時、観光地域づくりというのを意識しますか。

「あまり意識はしていない。まずは車両に全力をかけて、車両の中に旅が豊かになる空間をつくる。多くの人の対話が生まれる舞台、環境をということ。心地いい空間のためには、量産化している工業製品の金属とプラスチックでできている車両にかたに自然の素材を入れるのが大事になってくる。しかし、木や竹、和紙など日本の伝統的な、心地よい空間に必要な素材は全部ないというのが車両。燃えちゃいけないから。しかしJR九州は理解を示し、天然のムクノ木を徹底的に使えることになった。お客さまにとっては、

布施の人は朝の5時頃から表に掃除をまわっている。観光客が着た時にはまだは奇麗になってる。その努力を外に見せないのすごい。豊かなまちになっていいから子どもたち見事に育っている、将来まち帰ってくる。子どもが帰ってくるまちをつくるのが一番大切。そのためは大人が切磋琢磨して、代をとらえて、その時代で売れるものをつくっていく。日本が昔も培ってきた、色、形、素材、い勝手、考え方が表現されたまは希少価値があるからこそ人は安売りで多くの人を集めたりやり方は瞬間にはいいけれど、それでは観光立国にはならない、美しい国をさらに奇麗にして、しように生きていると優秀な子

自然石露天風呂

★★★★★  
**5つ星の宿**  
観光経済新聞社認定

夕食は **和・洋・中・エスニック**  
**世界70種類以上のバイキング!!**

料理人が目の前で料理します

**実演バイキング**

※料理写真はイメージです

あけましておめでとうございます。

**豪華 実演バイキングと湯めぐりワールド**

**混浴エリア**  
 県下最大級100畳の  
**大露天風呂**

※濡あみ着 着用となります

**自然石露天風呂**

**男女別エリア**

男女交代制で、両方のお風呂をお楽しみいただけます

**木曽ひのき露天風呂**

白樺リゾート  
**池の平ホテル**

総合予約センター **TEL.0266-68-2100**  
 〒391-0392 長野県北佐久郡立科町芦田八ヶ野1596

池の平ホテル